

松山分水問題で 3市の水事情を意見交換

黒瀬ダムを水源とする県営西条工業用水の松山市への分水問題で、今年の1月29日に松山市と西条市の市長・市議会議長で協議した結果、関係市間で事務レベルの協議の場を設け、きたんのな話し合いをすることになり、松山市・西条市・新居浜市の3市による意見交換会が5月31日に西条市役所で行われました。

第1回目となった今回の意見交換会では、各市がそれぞれの水事情などについて説明を行いました。



▲松山市・西条市・新居浜市の事務担当者による初めての意見交換会

松山市の説明

松山市からは、松山市の水事情、新規水源確保策、節水型都市づくりの現状について説明がありました。

●松山市の水事情

松山市の上水道の水源は浅井戸で、農業用水や工業用水などの井戸と競合しており、不安定な水源である。

そのため、新規水源の確保が必要である。

●新規水源確保策

水源開発について19項目の



方策を検討し、自前で出来ることはすべて行った。

その結果、コスト面で優れている県営西条工業用水から一部転用(分水)を最優先に取り組みたい。

●節水型都市づくり

「節水型都市づくり条例」や「大規模建築物の節水に関する条例」を制定しており、市有施設には節水型機器などの設置を行っているほか、節水機器に対する各種補助制度を設けるなどして、節水の啓発に努めている。

西条市の説明

西条市からは、歴史に残る水利紛争や、水利権の法的性格、将来の水確保などについて説明しました。

●歴史に残る水利紛争

・渦井川
新居浜市の大生院川口にある渦井川(鮭川)をめぐり、飯岡の鮭川水利組合と大生院の住友泉水利組合との間で起こった水利紛争。

・中山川

丹原町石経にある中山川の釜之口堰は、洪水のたびに流出したため、堰の位置を江戸時代に変えたところ、下流の大頭堰での取水に支障を来すようになり、堰の位置をめぐり起こった水利紛争。

・大明神川

大宮堰(樋ノ子堰)での取水について、大野・宮之内地区と桑村・国安地区の間で起こった水利紛争。

●水利権について

物件の優先的効力や、物件的請求権を持つ水利権の法的性格を強調し、水問題は簡単なものではないことと、後

世にも強い影響を与えるものであることを主張。

●現在の水事情と動き

○旧西条市内では地下水の利用が多く上水道の普及率が低いため、今後の上水道水源を確保する必要がある。

○過去40年間のデータを見ると、降水量は年々少なくなっており、地下水位が低下している。

○土地改良区など13団体から分水反対決議が提出されている。

新居浜市の説明

新居浜市からは、各種用水の現状が説明され、新居浜市内の地下水の状況については現在のところ水は足りているという認識が示されました。

意見交換会は月1回程度の開催を予定しており、次回は7月9日(月)に新居浜市で開催する予定です。

●問合せ

水資源対策調査研究会(市庁舎別館環境課内)
TEL 089715211382